

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-72866

(43) 公開日 平成8年(1996)3月19日

(51) Int.Cl. ⁶	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
B 6 5 D 5/66 65/32 85/60	3 0 1 A			

審査請求 未請求 請求項の数 1 F D (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平6-236076

(22) 出願日 平成6年(1994)9月6日

(71) 出願人 000003193
凸版印刷株式会社
東京都台東区台東1丁目5番1号

(71) 出願人 390002990
株式会社ロッテ
東京都新宿区西新宿3丁目20番1号

(71) 出願人 000206093
大森機械工業株式会社
埼玉県越谷市西方2761番地

(72) 発明者 宮下 典之
東京都台東区台東一丁目5番1号 凸版印刷株式会社内

(74) 代理人 弁理士 秋元 輝雄

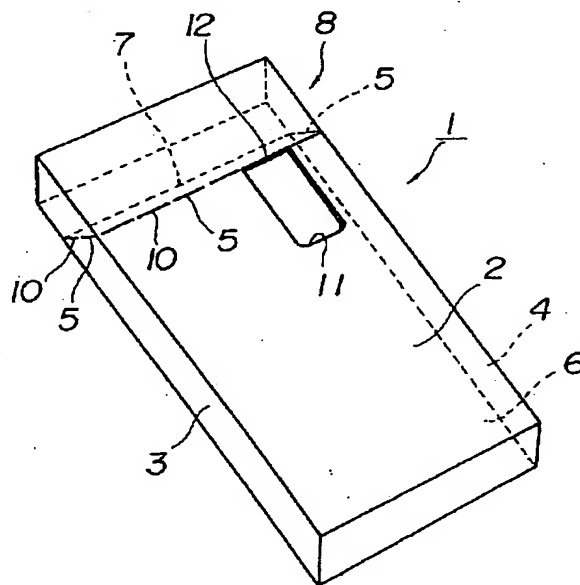
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 カートン

(57) 【要約】

【目的】 開封に際して要する開口によってカートンの外觀が損なわれないようにするとともに、蓋部を回動させ易くする指掛かりを開口に得てその開口を大きくしないようにし、開封し易くかつ使い勝手のよいカートンを得る。

【構成】 正面板2に、該正面板2の開封線5の連続して、該正面板2の幅寸法より小幅の開口部11を設けた。



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 正面板および該正面板左右の側面板に連続する分断可能な開封線を有し、背面板に前記開封線に連続する折り線を有して、開封線より上方の蓋部が該開封線から分離した後に前記折り線を中心にして回動可能に形成されるカートンにおいて、前記正面板に、該正面板の開封線の連続して、該正面板の幅寸法より小幅の開口部を設けたことを特徴とするカートン。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、菓子類などを収容するカートンに関するものである。

【0002】

【従来の技術】 従来、この種のカートンにおいては、内容物の取り出し操作性を考慮して各種の構造のものが提案されている。その一つとしてカートンの長手方向の一端を蓋部とし、その蓋部全体の回動によってカートンを開閉できるようにしたものがある。図4から図6に示すように、そのカートン1は一般的に直方体形状を呈している、正面板2および正面板2の左右の側面板3、4に連続する分断可能な開封線5を有しているとともに、背面板6に前記開封線5に連続する折り線7を有しており、前記開封線5および折り線7より上方の部分を蓋部8としている。そして、前記開封線5が分断して蓋部8がその開封線5から分離した後に前記折り線7を中心にして回動可能に形成される。

【0003】 前記開封線5は、図示するように、正面板2にあっては、二列の切り刃により得られたファスナー部9として形成され、左右の側面板3、4にあっては、前記ファスナー部9の上縁部分に連続するとともに、そのファスナー部9より上位置に設定された前記折り線7に連続する切り取り用ミシン目10としている。そしてこの構造のカートン1を開封するには、上記ファスナー部9の一端を持ってそのファスナー部9を取り除くとともに、折り線7を中心にて蓋部8を折り曲げて上記切り取り用ミシン目10を破断すればよい。このようにして開封線5が分断されると蓋部8が前記折り線7を中心にして回動でき、カートン1の開閉が行えるようになる。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、上述の開封線5の一部であるファスナー部9を正面板2に配したカートン1では、図6に示すようにそのファスナー部9を取り除いた後に大きな開口が生じてしまい、特に正面板幅方向に亘る長さを有する小物（例えば板チョコなど）が複数収納されている場合では、その内容物が開口からこぼれ出る可能性があり、またファスナー部の切り口が大きく目立ち、開封後の外観を損なうという問題があった。

【0005】 そこで本発明は上記事情に鑑み、正面板お

2

よび左右側面板に開封線が連続し蓋部の回動により開閉できるようにしたカートンにおいて、開封に際して要する開口によってカートンの外観が損なわれないようにするとともに、蓋部を回動させ易くする指掛かりを開口に得てその開口を大きくしないことを課題とし、開封し易くかつ使い勝手のよいカートンを得ることを目的とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】 本発明は上記課題を考慮してなされたもので、正面板および該正面板左右の側面板に連続する分断可能な開封線を有し、背面板に前記開封線に連続する折り線を有して、開封線より上方の蓋部が該開封線から分離した後に前記折り線を中心にして回動可能に形成されるカートンにおいて、前記正面板に、該正面板の開封線の連続して、該正面板の幅寸法より小幅の開口部を設けたことを特徴とするカートンを提供して、上記課題を解消するものである。

【0007】

【作用】 本発明において、正面板に対して予め開口部が設けられているため、その開口部における蓋部側の開口縁を指掛かりとして蓋部を回動させ、開封線を分断できるようになり、そして開封後も、同様に開口部の蓋部側開口縁を指掛かりにして蓋部を開く方向に回動させることができる。

【0008】

【実施例】 つぎに本発明を図1から図3に示す一実施例に基づいて詳細に説明する。なお図4から図6に示す従来例と構成が重複する部分は同符号を付してその説明を省略する。図1に示すようにカートン1における正面板2およびこの正面板2の左右にある側面板3、4には、切り取り用ミシン目10からなる開封線5が設けられ、正面板2における開封線5の位置より上位置にして折り線7が背面板6に設けられており、その折り線7に連続するように側面板3、4における開封線5が傾斜している。上記開封線5より下位の正面板2には、即ち蓋部8以外の正面板2には、開封線5に連続して開口部11が設けられている。この開口部11は正面板2の幅寸法より小寸法の開口幅を有しているものであって、その開口部11の上縁側は蓋部8における正面板2の下縁部分12としている。

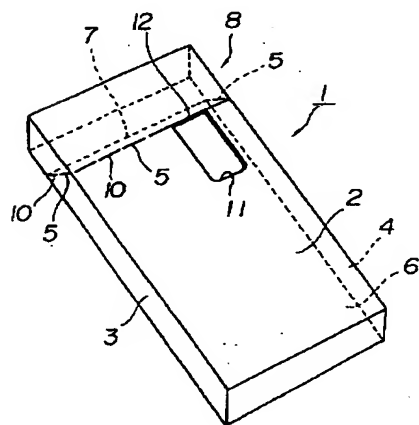
【0009】 このようにカートン1では、開封線5の下位の正面板2にその開封線5に連続する開口部11が小幅にして設けられていることから、開口部11における蓋部側の正面板2の下縁部分12を指掛かりとしてその蓋部8を回動させ開封線5を分断することにより、カートン1を開封できる。この開封後には蓋部8の回動によりカートン1が開閉され、蓋部8を開く際に前記下縁部分12（開口部11の上縁）を指掛かりとすることにより、蓋部8が容易に回動するようになる。なお、開口部11の開口幅は指先が入る程度のものとなればよい。こ

のように、開口部11の開口幅は正面板2の幅より小さく、指先が入る程度のものとすれば、仮にカートンへの収納物として、正面板2の幅に対応した板チョコのような小物を複数個並列状態で収納した場合であっても、蓋部8の開時に開口部11からその収納物がこぼれ出るようなことがなく、またカートン収納物の収納状態をカートンを開封せずとも目視することができる。。また、カートン1の内部には背面板21の両側に、上端角部を角取りした側板22が起立したトレー20を、カートン蓋部を回転させたときに、開口部から表出する状態に装着してある。このトレー20は、カートンの開口部においても内容物を整列収納するという目的の他に、その側板22の前辺と、カートンの蓋部の正面板2の内面とを接し、係合させることで、蓋部の再封を行う目的も備えている。この時、開口部11は、これらの部材の係合状態には何ら障害とならないので、その係合は十分に機能し、満足な再封状態を得ることができる。

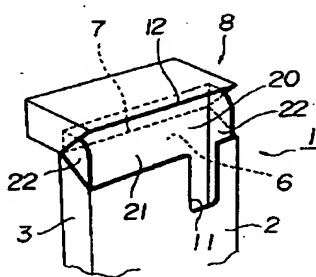
【0010】

【発明の効果】以上説明したように、本発明のカートンは、正面板および該正面板左右の側面板に連続する分断可能な開封線を有し、背面板に前記開封線に連続する折り線を有して、開封線より上方の蓋部が該開封線から分離した後に前記折り線を中心にして回転可能に形成されるものであって、前記正面板に、該正面板の開封線の連続して、該正面板の幅寸法より小幅の開口部を設けたことを特徴とするものである。このように、正面板には開封線に連続した開口部が設けられているので、従来のファスナーを取り除いたときのような大きな複数の切り口が生じず、開封後においてのカートン外観を損なうこと*

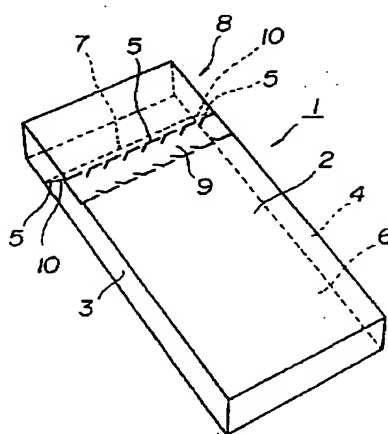
【図1】



【図2】



【図3】



*がない。また、開口部の上縁部分を指掛かりとして蓋部を回転させることができ、開封線の分断が容易に行えるようになるとともに、開封後においても蓋部を開ける際には前記上縁部分を指掛かりとして利用できる。さらに、上記開口部の幅寸法は正面板の幅寸法より小さくするものであることから、収納物の形状寸法に応じて開口幅を設定すれば良く、仮に正面板の幅寸法に対応した小物が収納物として収納されていても、その開口部から収納物がこぼれ出ることがなく、また、カートン内に装着するトレーを利用して、蓋部の再封を簡単、かつ確実に行うことができるなど、実用性に優れた効果を奏するものである。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係るカートンの一実施例を示す説明図である。

【図2】一実施例をブラックスで示す説明図である。

【図3】一実施例において蓋部を開いた状態を示す説明図である。

【図4】従来例を示す説明図である。

【図5】従来例をブラックスにて示す説明図である。

【図6】従来例の開封状態を示す説明図である。

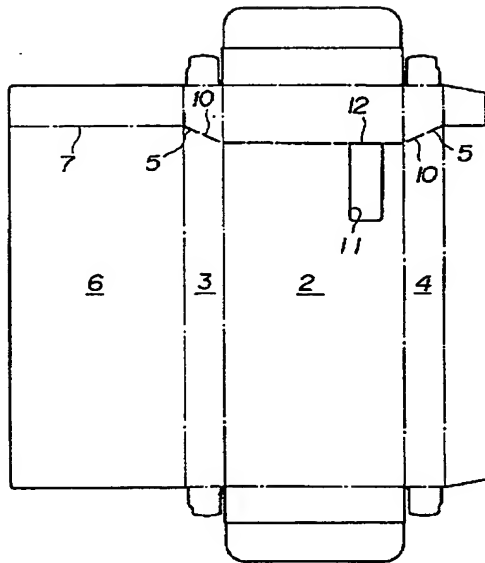
【符号の説明】

- 1…カートン
- 2…正面板
- 3, 4…側面板
- 5…開封線
- 8…蓋部
- 11…開口部

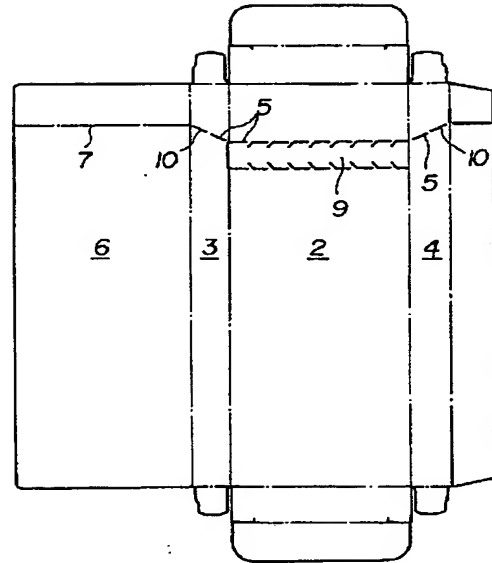
(4)

特開平8-72866

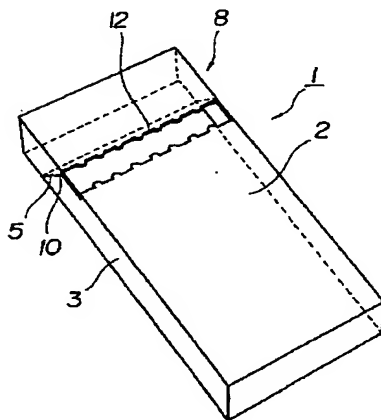
【図4】



【図5】



【図6】



フロントページの続き

(72)発明者 白井 保久
東京都新宿区西新宿三丁目20番1号 株式
会社ロッテ中央研究所内

(72)発明者 郡山 武志
埼玉県越谷市西方2761番地 大森機械工業
株式会社内